

市民の皆さまとの協働の まちづくり

須賀川市は・・・

福島県のほぼ中央に位置し、西に那須連峰、東に阿武隈高地の山並みを望み、市内中心部を阿武隈川と釈迦堂川がゆったりと流れる、自然環境に恵まれたまちです。

また、本市は、東北縦貫自動車道や国道4号、JR東北本線や東北新幹線などにより首都圏や仙台圏へのアクセスが容易です。さらには県内唯一の空の玄関口「福島空港」が位置し、これら高速交通網の整備により全国はもとより海外とも結ばれ、人・物・情報などの交流が活発なまちです。

観光資源としては、国の名勝に唯一指定されている「須賀川牡丹園」を有し、10haの園内には、290種類、7000株もの牡丹が、4月下旬から5月中旬に見ご

ろを迎え、大輪の花を咲かせます。

また、8月には、本市夏の風物詩として、1万発の花火が夜空を彩る「釈迦堂川全国花火大会」が開催され、大勢の観客を魅了します。さらに、11月には、400余年の歴史と伝統を誇り、日本一の火祭りを自負する「松明あかし」が盛大に繰り広げられます。

松尾芭蕉が「奥の細道」の旅で8日間滞在した、文化とおもてなしのまち「須賀川市」をぜひ一度訪れてください。

協働のまちづくり

地域社会は、人口減少への対応や分権型社会の進展、さらに、一昨年来の経済不況など、大きな曲がり角にさしかかっています。このため、市民生活をはじめ産業・経済など、あらゆる面において大

きな影響が及び、行政に求められる市民の要望はますます複雑多様化し、市民と行政の果たすべき役割は大きく変化しなければならぬ情勢となっています。

私は、変化の激しい今こそ、「意識・価値観の共有」「ネットワークの活用」「スピード感を持った行政経営」そして「循環の理念」の4つを

市政執行の基本理念に、「市民の皆さまとの協働のまちづくり」が必要不可欠と考え、市政を執行していきます。

また、この変化に柔軟に対応するため、本年4月に市役所の組織機構を改革し、こども課、環境課の新設、商工労政課、観光交流課等の改編など、時代に合った組織への見直しを行い、市民サービスの向上を図るとともに、職員の意識改革や発想の転換を図る大きな



400余年の伝統を誇る「松明あかし」

地域医療の充実

契機となりました。

本市地域医療の中核である公立岩瀬病院は、施設の老朽化が進み、建て替えが大きな課題となっておりました。このため、構成市町村の協力の下、平成21年度から病棟の建て替えに着手し、現在その姿を現しつつあります。また、ソフト面でも、病院経営の安定化・効率化を図るため、経営体制を見直し、

職員の意識改革と共に、企業団として独立した病院経営をスタートさせたところです。

また、安心の暮らしを支える地域医療を守るため、平成21年度は須賀川医師会のご協力の下、市内全域で「地域医療を語る会」や「地域医療講演会」を開催し、市民の皆さまにコンビニ受診の抑制について理解を求めてきました。さらに、休日夜間救急診療所の診療体制を平日の夜間まで拡大し、2次医療機関の医師などの負担軽減を図り、地域の医療資源を大切に取る取り組みを行っています。少しずつ、そして着実に、地域資源である地域医療を守ろうとする市民の皆さまの「意識の変化」が確実に始まっていることを実感しています。

地域産業の振興

農業の振興については、水稲の地域間作付け調整の仕組みづくりに取り組んでいます。圃場面積が小さく労力がかさむなど生産効率の低い標高約300m以上の中山間地域などとそれ未満の平地地域に区分し、転作作物を指定の上、中山間地域などには平地に比べ補助金を5割加算する制度を本年度から導入しました。

また、特産品のキュウリをはじめとする野菜、ナシ、リンゴなどの果樹、雪柳やシクラメンなどの花きなど、農産物の特産化を図りながら販路拡大に取り組んでいます。さらに、市内で生産される農産物の安全・安心と消費者の信頼確保に努め、地域内循環を推進し、特に、米粉の利用促進については、米粉パンを学校給食に導入するための助成を行い、児童や生徒、保護者を中心に米粉への理解浸透を図りながら、米の消費拡大に努めています。

商工業については、人材育成事業や試験研究事業に対する補助制度の充実、さらに市内事業者が生産した工業製品を市が認定するこ



県内最大級の規模を誇る「釈迦堂川全国花火大会」

とで販路開拓などを支援する市独自の「工業製品認定制度」の創出、企業間ネットワークセミナーの開催などを通じて、新たなビジネスチャンスが生まれるきっかけづくりを行っています。

ながら、技術力や安定性のある優良企業の新規立地の促進に努めています。

地方自治体が、現在直面する課題を解決するためには、そこに暮らす市民の皆さまとの「協働」こそが、唯一の道であるとの認識の下、満足度の高い「須賀川市」を目指しています。

プロフィール

- ◆ 面積 279・55km²
- ◆ 人口 8万325人
- ◆ 世帯数 2万7098世帯

〔将来都市像〕人・自然・地域が輝く臨空都市すかがわ

〔まちの特徴〕豊かな自然環境の中、高速道路や東北新幹線が通り、空の玄関口「福島空港」のある高速交通体系に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年4月1日 長沼町、岩瀬村を編入合併

〔特産品〕岩瀬キュウリ、乾麺、須賀



須賀川市長 橋本克也



川絵のぼり、ナシ、リンゴ、須賀川産コシヒカリ「ぼたん姫」、岩瀬清流米

〔観光〕須賀川牡丹園、大桑原つつじ園、藤沼湖自然公園、いわせ悠久の里、ムシテックワールド

〔イベント〕釈迦堂川全国花火大会、松明あかし、長沼まつり、牡丹焚火、すかがわ国際短編映画祭、円谷幸吉メモリアルマラソン大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

ビューティフル・ウィンドウズ運動で 誇りの持てるまちへ

はじめに

東京23区の北東部に位置し、四方を一級河川に囲まれた足立区では、河川敷や豊かな水辺空間が、無くてはならない憩いの場所として区民生活に溶け込んでいます。また、区立公園の面積が東京23区中で最も大きいことも区の自慢の一つです。決して遠出をしなくても、身近な公園で、ゆったりとしたひとときを過ごすのは、足立区民お気に入りのライフスタイルの一つではないでしょうか。

新線の開業と進む駅前・拠点開発

平成24年には区政80周年の節目の年を迎える本区にとって、ポトルネックともいべき長年の課題は、交通不便地域の解消でした。

おかげさまで、平成17年にはつくばエクスプレスが、平成20年には日暮里・舎人ライナーが開業したことにより、交通利便性が格段に向上しました。

また新線開業に合わせた駅前や拠点の開発が順調に進み、人口はわずか3年間に約2万人増加し、平成21年4月には66万人を突破しました。その後も若年層の流入が続き、今や67万人に手が届くところまで来ています。区南部の千住地域には、短期間に5つの大学の進出が決定しました。これらは都市の機能面からの評価が内外で徐々に高まりつつある一つの証しと考えています。

毎年実施している区民の意識調査の結果を見ても、「便利なまち」「住み続けたい」「足立区に愛着を持っている」との回答が約7割を占

めるようになりました。こうしたことから、区民が都市基盤整備の面から、区政に対してある程度の評価を下していることが読み取れます。

「治安が悪い」という足立区のイメージ

このように本区の都市基盤整備は、一定の進捗よくを見ました。そして次なるポトルネックは「治安対策」です。本区は刑法犯認知件数が東京都内で4年連続ワーストワンのという重い十字架を背負っています。実は、その3割が自転車盗であり、決して凶悪犯罪が多発する危険地域というわけではありません。また人口1万人当たりの発生件数では、東京23区中9位ですが、マスコミ報道される場合には認知件数だけが大大的にクロース



まちを歩きながら「まちの防犯診断」

アップされるため、区内外に「足立区は治安が悪い」「危険な地域である」という負のイメージが定着しつつあるのは誠に深刻な問題です。それを如実に物語る数字があります。平成21年に実施した区民の意識調査で「足立区に誇りを持ってますか」の問いに対して、「ノー」の回答が5割を超えました。「便利で愛着はあり、今は住み続けたいとは思いますが、誇れるところまでは

ちよつと…」というのが現在の区民の複雑な感情なのです。その誇れない一番の理由として「治安が悪い」点を挙げる区民が多いのです。

治安が悪いと感じる気持ち、いわゆる体感治安はとかく感情面、精神面から大きな影響を受けるといいます。マスコミなどの報道が、区に対するマイナスイメージを必要以上につくり上げている面も否めません。しかし私たちが一番恐れるのは、単に便利さだけが先に立つだけのまちであれば、大勢の人が一時的な居住場所と考えるだけの「使い捨てられるまち」で終わっ

てしまうのではないかとということ。使い捨てようというまちを大切にしたいという思いを、まして区政に参画しようなどと考える人は少ないでしょう。

美しいまちは安全なまち

そこで本区が進めているのが「ビューティフル・ウィンドウズ運動」です。かつてニューヨークのジュリアーニ市長が「プロウクン ウィンドウズ理論」でまちの治安を再生したことにヒントを得ていますが、単に汚いところを減らすだけのおしまいでなく、きれいなところを増やすというプラス思考、より積極姿勢での取り組みです。

平成21年末、本区は警視庁生活安全部と「治安再生の推進に関する覚書」を締結しました。現在はアクションプランを策定し、体感治安を良くしたいという共通の目標がありながら意外に関係性が希薄な警察と行政、そして何より区民を巻き込んだ「総ぐるみ」の取り組みを展開中です。認知件数が激減するところまでは至っていませんが、平成21年の同月比マイナス120件(5月)と、一定の成果を見ています。そこで下半期に入ったこれか



駅前でのビューティフル・キーパー(美化)活動

らが正念場と気持ちを引き締めています。一方でこの5月には、民間の経験者を課長・係長に採用した「シティブロモーション課」を新設しました。満足なマーケティングもなく、その上やたらやりっぱなしで終わりがちな行政の悪癖を解消し、分かりやすくかつアピール力のある広報・報道戦略を、庁内全体が

意識して展開するための仕掛けです。ビューティフル・ウィンドウズ運動の展開にも大いに力を振るっていきます。2年後の80周年という節目の年を、1人でも多くの区民が誇りを感じることでできるまちとして迎えられるよう、全庁一体となつてばく進中です。

プロフィール

- ◆ 面積 53・20km²
- ◆ 人口 66万7154人
- ◆ 世帯数 31万8926世帯

【将来都市像】協働で築く力強い足立区の実現

【まちの特徴】東京の北東部に位置し、周囲を川で囲まれた足立区は、旧日光街道の第一の宿場「千住宿」を中心に発達し、下町の風情を色濃く残した人情味豊かなまち。近年、新たな鉄道の開通や駅前再開発の進展に伴い、若年層を中心に人口が増加

- 【特産品】小松菜、枝豆、皮革製品
- 【観光】荒川、西新井大師、千住宿まつり、光の祭典、春の花火と千本桜まつり



足立区長 近藤やよい



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

清須越四百年事業による 清須市の魅力の発信

清須市の横顔

清須市は、平成17年7月7日に西枇杷島町、清洲町および新川町の3町合併による市制施行により誕生しました。そして、平成21年10月1日には春日町と合併し、新しい清須市として歩み始めました。

地域資源は「歴史」と「川」

本市の地勢、地理的な特性は、愛知県西部、濃尾平野のほぼ中央に位置し、市の東部と南部は名古屋市に隣接しています。市域は、東西約5.5km、南北約8.0km、面積は17.32km²とコンパクトに市街地が形成されています。また、JR東海道本線、名古屋鉄道名古屋本線・犬山線・津島線および東海交通事業城北線の鉄道網、東名阪自動車道、名古屋高速道路、国道22号、302号などの道路網により周辺都市との連携が図られて

います。特に、市内には鉄道駅が10駅あり、その中でもJR枇杷島駅は名古屋駅から1駅という位置にあります。

本市の将来像を描くには、地域資源を活かしたまちづくりが欠かせません。それが「歴史」と「川」です。

市内には、戦国武将織田信長の居城であった清洲城など、数多くの歴史資源が残っており、城下町一帯が「関東の巨鎮」(当時の「関東」とは、今の東海地域以東のことを指します)と称されていました。また、徳川家康が関ヶ原の合戦で勝利を収めて通った吉例街道といわれる美濃街道の町並みが残っており、沿道には、からくり山車などの文化財が存在します。

また、この清洲城は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康という三英傑の壮大なドラマの舞台となり、NHKの大河ドラマの10作品で登場するなど、大河ドラマのふるさと・清須ともいえます。

本年は清須越四百年

そして、本市には庄内川、新川、五条川という3つの川が流れています。川の流れば、大きな恵みを与え、豊かな水辺環境を構成しています。一方、この川の流れば、過去においてたびたび水害をもたらした、このまちとここに住む人々の暮らしに大きな被害を与えてきました。特に、平成12年9月の東海豪雨では、当地域に甚大な浸水被害が発生しました。このように、水は貴重な資源であるとともに、災害をもたらす原因になるところがあり、その対応を含めて、本市は川と共生していく必要があります。

江戸時代の初め、慶長15(1610)年に清須にあった城下町が名古屋へ丸ごと引越した出来事を「清須越」といいます。戦国時代からその当時まで、尾張国の首府(現在という県庁所在地)は名古屋ではなく、この清須でした。清須は、この地方の政治経済、交通、文化の中心として栄える中心都市だったのです。

清須越四百年事業は、こうした地域力を高めていく絶好の機会です。市民の皆さんが主役となって、本市の魅力発信に参ります。

ところが、慶長14(1609)年、徳川家康が名古屋城の築城と清須城下町の名古屋移転を突如決定します。これは清須の地が水攻めや



織田信長公ゆかりの清洲城

水害に遭うおそれがあり、戦略的に不利であったことと豊臣方の勢力と緊張関係が続いていたことからといわれています。その翌年から、6万から7万の人が住んでいたという当時の大都市・清須から、城や武家はもちろん、寺社、町名、町家など、まさに丸ごとの引越しが行われました。

さらには、歴史と川に彩られた清須の魅力を全国に発信してまいります。

この清須越から、本年は400年目、また、桶狭間の戦いから450年目、新しくは、東海豪雨から10年目、本市が誕生して5年目など、さまざまな節目の年にも

あたります。これまで、清須が辿ってきた道のりを、清須越四百年事業を通じて市民の皆さんに知っていただき、そして、誇りと愛着が芽生え、はぐくまれることを目指します。

プロフィール

- ◆ 面積 17.32km²
- ◆ 人口 6万5908人
- ◆ 世帯数 2万6324世帯

〔将来都市像〕水と歴史に織りなされた安心・快適な環境都市

〔市町村合併〕平成17年7月7日、西枇杷島町、清洲町、新川町による新設合併。平成21年10月1日、春日町を編入合併

〔特産品〕土田かぼちゃ、宮重大根、ホウレンソウ、ニンジン、パセリ、花き、曲もの

〔観光〕清洲城、美濃路、朝日遺跡、五条川(桜)

〔イベント〕清須越四百年宵祭り、清須返し時代絵巻、尾張西枇杷島まつり



美濃路(美濃街道)の町並み(デザイン画)

地域力を高める

人口減少社会の中、本市では市



清須市長 加藤静治



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

宇治茶と歴史・文化の香る まちづくり

はじめに

宇治市は京都市の南に位置し、京都市のベッドタウンとしての性格と、宇治川の清流や世界遺産である平等院や宇治上神社をはじめとする歴史・文化資源に恵まれた観光都市としての性格を併せ持つ府下第二の人口規模を有する都市です。

宇治の歴史は古く、古代より京都、奈良を結ぶ交通の要衝であり、平安時代には藤原氏の別業の地として栄え、鎌倉時代に日本に伝えられたお茶は宇治の地で高級茶として生産され、将軍家の庇護の下、全国に名をはせてきました。

近年では鉄道網や道路網の整備が進み、京都市から約15分という地理的好条件も手伝って、毎年多くの観光客の方々に宇治を訪れていただいております。本年3月には「優

秀観光地づくり賞」の金賞にも選ばれました。

源氏物語とお茶のまち

源氏物語の後半十帖は、宇治を舞台として描かれており、宇治橋周辺には宇治十帖の古跡などが点在しています。

本市では平成3年に紫式部文学賞を創設するとともに、宇治十帖の古跡を歩いて巡る「源氏物語散策の道」整備や源氏物語ミュージアムの整備など、源氏物語をテーマとするまちづくりを進めてきました。

また、平成20年は源氏物語が書かれてちょうど千年にあたることから「源氏物語千年紀」イベントなどが数多く開催され、年間で556万人の方々に宇治を訪れていただきました。

もう一つ宇治の大切なものとし

て、「宇治茶」があります。

宇治茶は京都府下だけでなく奈良県、滋賀県、三重県にまたがる広い範囲で生産されていますが、市内で生産される宇治茶はその約9割が「覆下園」と呼ばれる独特の栽培方法が採られており、日光を遮ることによって渋みが少なく、ま味の多い碾茶や玉露といった高級茶の生産が特徴であるとともに、宇治独特の茶園景観をつくり出しています。

また、宇治茶の名声に大きく寄与したのが江戸時代に登場した茶師の存在です。

茶師は宇治橋周辺に屋敷を構え、高度なブレンド技術による高品質な宇治茶の安定供給を支えてきました。

その後、茶業の近代化と共に茶師は姿を消しますが、現在も宇治橋周辺には多くの茶問屋が軒を連



高級茶として抹茶や玉露に加工・販売される宇治茶

ね、お茶のまち宇治の風情をつくり出しています。

重要文化的景観

平成16年の文化財保護法の改正により、人々の生活やなりわいと自然風土が調和して形作られてきた景観として「文化的景観」という考え方が導入されました。

「宇治の文化的景観」は、宇治川に代表される自然景観を骨格としながら、重層的に発展した市街地とその周辺に点在する茶園によって構成される茶業に関する独特の文化的景観として高く評価され、宇治橋周辺の228.5haの区域を対象として、平成21年2月に都市

部では全国初の重要文化的景観として選定をいただきました。

本市ではこれまでも景観法に基づく景観計画を策定し、さまざまな取り組みを進めてきました。

今回の重要文化的景観の選定により、大きな価値付けをいただいたことから、市民の景観に関する関心も今まで以上に高まっています。

宇治川太閤堤跡の発見

平成19年9月に宇治橋下流右岸堤防付近で発見された「宇治川太閤堤跡」は、豊臣秀吉が伏見城築城の際に大規模な治水工事を行ったものの一部で、当時の高度な治水技術を伝える全国的にも貴重な遺跡として、平成21年7月に国の史跡に指定されました。

本市ではこの遺跡を単に新たな



宇治橋三の間から望む山紫水明の宇治川の景観

観光資源として活用するだけでなく、この地を観光宇治の新たな拠点と位置付け、時代を超えて宇治の歴史が体験できる場として整備するとともに、これまで進めてきた「源氏物語のまちづくり」に「秀吉と茶の湯」というテーマを加え、総合的なまちづくりに生かしていくことを決意し、平成21年7月に「宇治茶と歴史・文化の香るまちづくり構想」を策定しました。

歴史と文化の風格が漂うお茶のまちを目指して

現在本市では、「宇治茶と歴史・文化の香るまちづくり構想」の実現に向けて平成20年11月に施行されました「歴史まちづくり法」を活用すべく「歴史的風致維持向上計画」の策定に取り組んでいます。

宇治川太閤堤跡の整備だけでなく、宇治橋周辺のまちづくりと一体となって宇治の持つ歴史的資源や町並み景観の保全と活用を図るためには、市民の皆さんのご理解とご協力が不可欠であり、計画づくりに合わせてフォーラムやワークショップなどを開催し、市民意見の反映に努めています。また、具体的な取り組みに向け、

地元大学や茶業関係者などとの連携を進めているところです。

おわりに

現在本市では平成23年度から始まる第5次総合計画の策定に取り組んでいます。

この中で、重要文化的景観の選定や宇治川太閤堤跡の発見を契機にこれまで以上に「歴史と景観が調和したまちづくり」を進めることが

求められており、本市の基本施策の一つとして位置付けていきたいと考えています。

少子高齢社会のさらなる進展に伴う厳しい財政状況下ではありまが、未来の宇治に何を残し、何を伝えていくのかについて、市民の皆さんと共に考え、実現していくことが私の使命であり、ふるさと宇治に与えられた責務であると痛感しております。

プロフィール

- ◆ 面積 67・55km²
- ◆ 人口 19万3111人
- ◆ 世帯数 7万9432世帯

〔将来都市像〕みどりゆたかな住みたい、住んでよかった都市

〔まちの特徴〕世界遺産に「古都京都の文化財」として登録された平等院、宇治上神社をはじめ、多くの歴史的資源や宇治川の自然景観に恵まれ、これまで「源氏物語のまち・宇治」としてまちづくりを推進

〔特産品〕宇治茶（抹茶、玉露、煎茶など）、宇治茶を使った菓子や食品（茶だんご・茶あめ・茶カステラ・茶そばなど）、陶磁器（朝日焼・京焼）

〔観光〕平等院、宇治上神社、興聖寺、黄檗山萬福寺、三室戸寺、源氏物語ミュージアム、市営茶室対鳳庵、宇治市植物公園

〔イベント〕宇治川花火大会、鶴飼、宇治茶まつり、宇治川さくらまつり、県祭り、宇治十帖スタンプラリー、宇治田楽まつり



宇治市長 久保田 勇



※面積は国土地理院「全国道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「瀬戸大橋のまち」から『古のロマンのまち』へ

私は、平成21年6月、市長に就任しました。私の政治信条は「市民本位、市民参加、市民対話」による市政運営とまちづくりであり、市民の誰もが「坂出に生まれてよかった」「坂出に住んでいてよかった」と思えるよう、坂出に夢と元気を取り戻すため全力を傾注してまいります。

坂出市のマーケティング 「市民は顧客であり、職員はコストでなく資産である」

平成21年12月に、地元の香川大学のビジネススクールで前記タイトルにて講義をする機会がありました。

マーケティング（市場調査、宣伝・広告、販売促進）という工程をベースに行政を考えてみました。行政（市長）は、対市民、対議会、対職員、対関係機関（国・県など）を常に念頭に置きつつ、それぞれのバランスも保たなければなりません。その成果は、市民が行

政サービスにいかにか満足するかが決め手となります。

そこで、マーケティングでよくいわれる4P（①プロダクト、②プライス、③プロモーション、④プレイスメント）の視点で行政を検証した結果、行政におけるマーケティングとは、市民（顧客）への価値の提供であるとの考えに至りました。行政サービスには、有形、無形のサービスがありますが、大事なことは、行政サービスは、いずれもタダではないということです。

また、市民（顧客）と行政（提供者）それぞれが満足することが非常に重要であります（ただし、満足の度合いは個人差が非常に大きいということも認識しておく必要があるでしょう）。市民（顧客）の満足は、サービスに対する要望や提案が実現されることであり、行政（提供者＝職員）の満足は、市民からの評価（感謝、ねぎらい）や仕事のやりがい、処遇（地位、給与など）への反映

であります。

では、満足はどうかすれば得られるのか。それは、市民（顧客）に対して、最少・最適な経費で、より価値の高い行政サービスを提供することであり、そのためには、市民ニーズの把握が何よりも重要であります。通常、市民からの要望、苦情などは、市の窓口だけでなく、市議会議員、投書、電子メール、電話などを通して寄せられます。また、行政側からは、市政モニターや各種審議会、パブリックコメントなどで把握に努めています。

しかし、より積極的に市長自ら市民の集まりに向く「出前ミーティング」や、市役所に来ていただき意見交換を行う「市長サロン」を実施するとともに、アナログ的ではありますが「目安箱」を市本庁舎や各出張所に設置しました。専用の用紙を用意して、そのまま目安箱に投かんしたり、折り畳んで料金受取人払いで郵送したりできます。

また、職員との意思疎通も大切であると考えており、部長級の職員との朝食会（7:30～8:30、自己負担でサンドイッチとコーヒー程度）を毎月開催するほか、課長級の職員とは同様の朝食会を年12回程度実施、さらに若手職員とは昼休みに弁当持参でのフリートークをランチミーティングとして市長室で開催しています。

私は、相互理解を深めるための有機的かつ有効な手段は、現代社会においてもなお「会話」であり「対話」であると確信しています。

瀬戸大橋のまち

本市は、昭和63年4月に本四架橋3ルートの中で最初に開通した「瀬戸大橋」の四国側の玄関都市であります。開通当初は、架橋記念博覧会などで活気付き、「瀬戸大橋のまち」として夢と希望に満ちあふれていました。しかしながら、通行料金がほかの高速道路に比べ格段に高く、人々はその引き下げを望み、坂出商工会議所を中心に「100万人署名運動」なども展開されました。

ハード事業は完成したものの、高い通行料金が非常に大きなあい路となり有効に活用されているとは言い難い状況であります。さらに、ハード事業に偏重した国全体の累次の財政出動は、モラルハザードを誘発し、時代のすう勢とともに限界を迎えたと言わざるを得ません。

古のロマンのまち

本市は、そもそも「塩のまち」として栄え、その塩の積出港として港が発展し、市管理の重要港湾となりました。その後、埋立地に番の州工業地帯が形成され港湾工業都市として変貌を遂げ、昭和63年春の瀬戸大橋の開通を契機に「瀬戸大橋のまち」となりました。

しかしながら、その一方で、本市には優れた文化遺産が点在しており、さらには歴史上の多くの偉人に「縁」があります。そこで「古」に目をやり、郷土の先人に感謝し、市民が誇れる「古のロマンのまち坂出」を提唱し、客が訪れやすいまちに整備してまいります。

私は、古のキーパーソンとして6人の歴史上の偉人に注目しています。

- 【柿本人麻呂】沙弥島（狭岑の島）で歌を詠む。
- 【崇徳上皇】平安末期の第75代天皇、悲運の天皇。
- 【西行法師】崇徳上皇亡き後、御陵を訪れ悲哀の歌を詠む。
- 【菅原道真】讃岐の国の国司として4年間赴任。
- 【理源大師】空海の実弟（真雅）に学んだ、沙弥島生まれとの説。
- 【久米通賢】塩田開発で坂出の礎を築いた発明家、地図作成の権威。

そうした中で、歴史、偉人、偉人縁の地、史跡の再調査や資料の整理を進めてまいります。史跡などの場所の確定が進めば、白地図に落としデータ化したベースの地図を作成し、そこから各種の専用の地図（HP用、史跡巡り用、サイクリング用、まち歩き用など）を作ります。

折しも、平成21年より4年間の予定で、県の埋蔵文化財センターが中心と



坂出に伝承されてきた「坂出太鼓台」



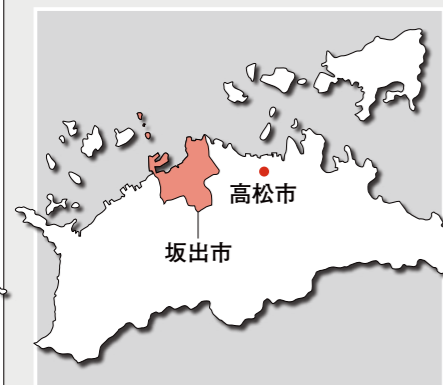
坂出市長 綾 宏

【特産品】坂出三金時（ミカン（小原紅早生）、金時人参、早掘甘藷）、ブロッコリー、レタス、大根

プロフィール

- ◆ 面積 92・46km²
- ◆ 人口 5万7361人
- ◆ 世帯数 2万4257世帯

【将来都市像】古のロマンのまち 坂出
【まちの特徴】県の中央部に位置し、中央を流れる綾川の東には古代条里制による田園地帯、北には臨海工業地帯とともに瀬戸大橋沿いに瀬戸内海の島々が連なる美しい景観が広がり、郊外には緑豊かな五色台や讃岐富士と称される飯野山などを有する風光明媚なまち



【観光】五色台、崇徳上皇白峯御陵、西行法師のみち、国宝神谷神社、沙弥島、瀬戸大橋記念公園、東山魁夷せとうち美術館、聖通寺山公園、国庁跡

【イベント】瀬戸大橋駅伝競走大会、さかいで塩まつり、かわつ花菖蒲園一般開放、さかいで大橋まつり、水のフェスティバル in 府中湖、坂出天狗まつり、坂出天狗マラソン、まなとピアフェスティバル、さかいで光輝里フェスティバル

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。